

本屋発の文芸誌『草獅子[そう・しし]』 発行人 竹田信弥さんと語る
文芸誌が築く城 ～ 宴としての『草獅子』～

文芸誌のん

やれやれ、本なんかなくたって
ぼくらは同じように幸福でいられるだろうし、
ぼくらは幸福にするような本なら、
必要とあれば自分で書けるだろう。

いいかい、必要な本とは、
ぼくらをこのうえなく苦しめ痛めつける不幸のように、
自分よりも愛していた人の死のように、
すべての人から引き離されて森の中に追放されたときのように、
自殺のように、ぼくらに作用する本のことだ。

本とは、ぼくらの内の氷結した海を砕く斧でなければならぬ。

なんぢあり？

フランツ・カフカ

(親友オスカー・ポラックへの手紙)

1904年1月27日 頭木弘樹訳



『草獅子』(vol.1)は当店でも購入可能です。
(送料200円でお送りします)

【日時】2017年3月24日(金) 19:00～21:00

【参加費】1,000円(ワンドリンク代として) ※要申込

【場所】たられば書店 大阪府守口市本町1-3-9

06-7503-2634 <http://tarareba.jp/>

【ゲスト】竹田信弥 [双子のライオン堂店主 / 文芸誌『草獅子』発行人]



ま
ち
の
ほ
ん
や

たられば書店